

一人一台端末を用いて、社会的事象から問いをもち、単元の見通しを明らかにする学習

第3学年

はたらくひととわたしたちの暮らし

こんな子どもたちの姿が生まれました！

- ICT 端末と組み合わせて、実物や地図を活用して社会的事象を捉えることができました。
- ICT 端末を用いて資料を関連付けて捉えることができました。
- 児童が自らの学びを蓄積し、学習内容を関連付けて次時の学習に向かうことができました。

ICT端末を含めた各種の教具や資料の特性を活かした活用

前単元で学習した社会的事象について、大型提示装置や紙媒体の資料などを区別しながら活用するとともに、児童の実態に即して実物を提示する。

- ・畑としての土地利用を実感的に捉えられるように航空写真を示す。
- ・方位を確認し、市の空間を捉えやすくするために紙の地図を活用する。
- ・児童の興味・関心を高め、認識を把握するために実物の枝豆を提示する。



教師の指導のポイント

- 社会的事象を提示する際には、実物の提示や実際の見学など、具体的に事実を捉えられる工夫をする。
- 導入段階にとどまらず、課題追究の段階においても、前時の学習や前単元の学習などを児童が関連付けられるように、ICT端末で活用できる資料等を共有する。

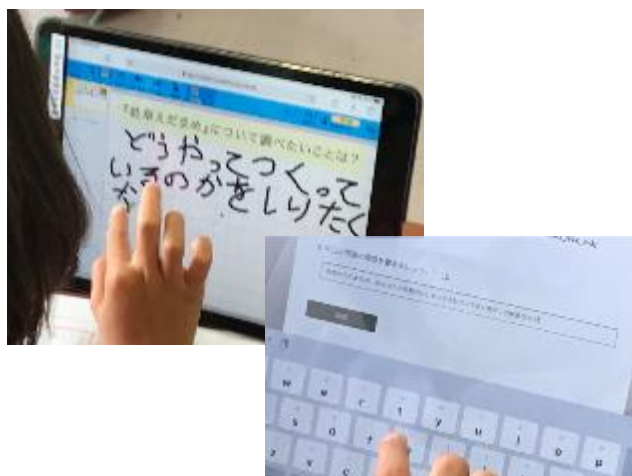
学習支援ソフトを用いて一人一人の疑問や振り返りの共有や蓄積

協働学習支援ツールのカードを用いて、社会的事象に対する一人一人の問いを共有し、単元を貫く課題を設定する。

- ・本時の学習で明らかになったことから、問いがもてるように、疑問に感じることを出し合う場を位置付ける。

学習支援ソフトのチャット機能を用いて、単元の学びが蓄積するよう、学習の振り返りを記入する。

- ・あらかじめ学習支援ソフトのアンケート機能を用いて、簡単な振り返りシートを作成し、毎時間の学びで活用する場を位置付ける。



教師の指導のポイント

- 課題追究に用いる資料等は、児童自ら選択し、資料等を比較・関連させながら事実が捉えられるようにする。
- 社会的事象を示す資料等から読み取ったことや疑問に思ったことについて、互いに具体的な個所を指し示すなどして、事実や問いを共有できるようにする。